

株式会社 六甲商会

六甲商会は今年12月で  
創業75周年

決算!!

# Rokko Information



私たちはお客様に継続的に情報提供することで  
お役に立つことを大切にしています。

HPからも  
ご覧になれます→



2 2020  
February

2月度  
六甲商会は**本決算**です。  
よろしくお願ひ致します。



トレンド情報 ▶P2

夢の「空飛ぶクルマ」

セミナー情報 ▶P4

Kobe Executive Seminar  
第17期 「ビジネスの新潮流」

ソリューション ▶P8

ウォーターネット事業 ▶P50

六甲商会 お役立ち

検索

## 夢の「空飛ぶクルマ」

日本における「空飛ぶクルマ」の販売を主な事業内容とするエアモビリティ株式会社が、2019年8月25日までに設立されていた。エアモビリティ社は、イギリスの電動垂直離着型機「eVTOL」(イーブイトール)の製造メーカーであるVRCO社と、日本における同社製品の独占販売権に関する契約を結んでいる。eVTOLは一般的に空飛ぶクルマの一種をされ、エアモビリティ社はVRCOの販売代理店として日本市場で最先端の空飛ぶクルマを販売・提供していく。

### ■21世紀の産業革命を実現させるために

現在、日本を含む世界各国が空飛ぶクルマの開発に取り組み、実証実験を実施している。「人類永遠の夢」と言われることもある空における自由な移動が手軽に叶う日もそう遠くない。空飛ぶクルマが実用化されれば交通業界にイノベーションが起きるだけでなく、物流業界に対しても大きなインパクトを与える。急病人の搬送や被災地への物資の輸送などにも貢献する。こうした理由から、法整備やインフラ整備、安全面などの問題がクリアされることが前提だが、早期の実現を期待する声も少なくない。こうした期待感が高まり、空飛ぶクルマの開発も進む中、マーケットも着実に広がっていくはずだ。エアモビリティ社は報道発表で「空を自由に移動できることは人類永遠の夢だと思われておりました。それがこの空飛ぶクルマの出現により、まさしく現実のものとなろうとしております」としている。

### ■官民協議会、事業化目標は「2023年」と設定

日本では「空の移動革命に向けた官民協議会」が空飛ぶクルマの実用化に向けて積極的な議論を展開しており、2018年12月には実用化に向けたロードマップの素案を公表した。その素案によれば、2023年を目標に事業化を実現させ、2030年代からは実用化をさらに拡大させることを目指す、としている。

「空飛ぶクルマ」の実現が現実味を帯び始めている。日本を含む世界各国で実証実験が頻繁に行われており、実用化を見据えた法整備やルール作りに関する議論も進みつつある。舞台が「空」とはいえ、トヨタ自動車や日産などの日本の大手メーカーがどう参入するかも非常に気になるところだ。

### ■空飛ぶクルマって何？

空飛ぶクルマに明確な定義はないが、一般的に「電動かつ自動で垂直に離着陸する移動手段」を指す場合が多い。無人で遠隔操作や自動制御によって飛行できる航空機「ドローン」を乗車可能にしたものを指す場合もあれば、EV(電気自動車)ベースにプロペラや自動制御システムを備えたものを指す場合もあり、開発者が何かしらの要素をもって「空飛ぶクルマ」と主張すれば、現状は空飛ぶクルマのカテゴリーに入ることになるようだ。

道路を走行できなければクルマではないのでは？という疑問もあるが、「クルマ」という言葉の概念に「個人が日常の移動のために利用するもの」といった意味が込められていることから、必ずしも道路走行を条件にしているわけでもなさそうだ。海



外では「Skycar(スカイカー)」「Aircar(エアカー)」「Urban Air Mobility(アーバン・エア・モビリティ)」「Personal Air Vehicle(パーソナル・エア・ビークル)」「Flying cars(フライング・カーズ)」と呼ぶことが多いようだ。

### ■空飛ぶクルマの仕組みと種類

空飛ぶクルマは、翼を持つタイプかプロペラタイプか、エンジンを積んでいるのかモーター駆動なのか、タイヤで道路を走行できるかどうか、によって大まかに分類できる。もっとも開発が進められているのは、ドローンをそのまま大きくして乗車可能にしたタイプだ。仕組みも基本的にはドローンと同じで、電動で遠隔操作や移動制御、またはジョイスティックなどで簡単に操作ができるものが多い。ボディの軽量化を含めバランスを取りながら揚力を上げるため、プロペラは最低4基以上付いている。このドローンタイプにタイヤを搭載し、道路走行を可能にしたモデルも開発されている。タイヤとプロペラが独立しており、飛行時には折り畳み式のプロペラが展開するタイプや、タイヤのホイール部分にプロペラが内蔵され、飛行する際はタイヤが横に開いてホイールが上向きになりプロペラを回すタイプなど、さまざまなアイデアのコンセプトが生まれている。また、翼を持つタイプはエンジンを搭載し、道路走行時は翼を格納するのが一般的だ。セスナ機のような小型飛行機に、翼格納機能を持たせたイメージだ。いずれも少人数の乗車を想定しており、電動の場合は特にエネルギー効率をいかに高めるかがカギになっている。

### ■空飛ぶクルマの実現に必要なこと、技術的な課題：安全性とエネルギーの両立がカギ

従来の自動車はもとより、自動運転車やドローンに求められるものよりも高次元の安全性が必須となる。安定した飛行能力は当然として、常時通信機能や万が一の際に落下などを防ぐバックアップ機能や着陸支援機能も求められる。また、電動化を前提にすれば、バッテリー技術の向上も欠かせず、ボディ全体の軽量化と合わせていかに軽くて高容量の電源を確保するかという点も重要な技術課題になりそうだ。法整備：航空法が実用化の足かせに別枠の新規制が必要、現在の考え方は、空飛ぶクルマは航空法の規制対象となる可能性が高く、安全性や信頼性を確保するため耐空証明が必要となる。しかし、航空機やヘリコプターと同水準の規制がかけられると大きなハードルとなり、実用化に向けた研究開発は大きく後退しかねない。また、飛行機と異なり、はるか上空を飛ぶわけではなく、低空飛行が中心になることから地上権の問題なども発生する可能性がある。まずは用途や空域を制限するなどし、海外の動向なども参考にしながら安全性を損なわずにハードルを下げる新たな枠組みが必要となりそうだ。

### ■空飛ぶクルマ用のインフラ整備：航空管制塔に代わるシステム構築へ

初期導入段階では、場所を選ばず離発着可能な環境の構築は難しく、ヘリポートのような一定の離発着場が必要になるものと思われる。また、充電ステーションをはじめ、空中における障害物やビルなどの情報を受発信するセンサー類など、管制塔の役割をセ



ンサーやAI(人工知能)が自律して担うようなシステムも必要になりそうだ。研究開発支援：多大な研究開発費を支援する枠組みを空飛ぶクルマのような新しい事業は、最新の技術や新しい発想を持ったスタートアップの活躍の場でもあるが、研究開発には数百億円規模の資金が必要となる。スポンサーや投資・出資で集めるのが理想だが、公共性や科学の発展への貢献などを加味し、公的な支援体制が整備されると開発のスピード感も増すだろう。社会的受容性：心配ではなく応援される体制づくり 自動運転車の実現を危惧する声と同様、空飛ぶクルマも内在する危険性や技術面などから反対する声が出てくるだろう。一定程度の声は仕方のないもので、その不安を取り除く努力も当然必要となるが、実証実験の段階で住民などから不安視されることがないよう、技術面や安全面をどのように高めているのか、また社会にとってなぜ必要なのかなど、時間をかけてしっかり周知し、機運を高めていくことも重要だろう。

## ■空飛ぶクルマで実現すること

スマートな移動の実現：道路交通の枠にとらわれない立体的な移動が可能に目的地に向かう際、電車やバス、タクシーなどを乗り継ぐ回数が減り、道路に依存していた経路も直線で結ぶことが可能になるため、航行距離や所要時間を短縮することが可能になる。また、空いている道路は通常通りに走行し、過密化が進む都市部においては飛行することで渋滞を回避できる。道路が整備されていない場所への移動も可能となり、橋がない川を渡ったり小さな峠を超えたりすることも可能になるほか、超高層ビルの屋上や高層階に直接移動するといった使い方も考えられる。このほか、定期船などの往来が少ない離島への交通手段としての需要もありそうだ。タクシー感覚で少人数の渡航ができるため、地域住民や観光客などの日常の足として活用できる。緊急車両への活用：災害や事故現場に柔軟に対応交通事故などの際、渋滞で到着が遅れがちな救急車両として活用すれば、到着時間を大幅に短縮できる。ドクターヘリと救急車の間にある存在として大きな意義を持ちそうだ。また、大規模災害時に道路交通が遮断された場合も、迅速な救助や現状把握、調査活動などをスムーズに行うことも可能になるだろう。天候に左右される可能性はあるが、山岳遭難救助や海難事故にも対応できるかもしれない。新たな観光資源化：誘客効果は絶大 導入当初は物珍しさから乗車希望者が殺到することは間違いなく、観光の大きな目玉となる。移動しながら優雅な旅を楽しんだり、ヘリコプター遊覧の簡易バージョンとして安価で楽しむこともできそうだ。物流への活用：ドローンの応用形で物流でも活躍 人を乗せて運べるということは、当然一定程度の荷物を運ぶことも可能になる。無人のドローンですでに実証実験が行われているが、アクセスの悪い場所への宅配など物流面への貢献にも期待できる。CARTIVATOR(カーティベーター)：業界の若手有志が設立 東京五輪でデモ目指す「モビリティを通じて次世代の人達に夢(=能力の拡張)を提供する」ことをミッションに掲げ、自動車・航空業界、スタートアップ関係の若手メンバーが中心となって立ち上げた有志団体。団体による活動と平行して、2018年8月には空飛ぶクルマ実用化に向け株式会社SkyDriveの設立を発表している。インフラ不要の「真

に自由な移動」を実現し、2050年までに誰もがいつでも空を飛べる時代を創ることを目指しており、道路や滑走路を必要としない垂直離着陸型でコンパクトな空飛ぶクルマの開発を進めている。試作機は2人乗りの電動型で、全長3600ミリメートル、全幅は走行時1700ミリメートル、飛行時3100ミリメートル、全高1100ミリメートルと世界最小サイズ。ドライブモードの時は3輪タイヤで走り、飛行モードになると四隅のフェンダー(プロペラガード)が変形して、プロペラを回して垂直に浮上する。公道から離陸が可能で、走行速度は時速60キロメートル、飛行速度は時速100キロメートルを目指す。2019年9月に無人機の飛行試験、2019年に有人機の飛行試験をそれぞれ予定しており、2020年の東京五輪開会式で聖火点灯デモを行う独自目標を掲げている。有人機の販売は2023年を予定している。2019年に入り、CARTIVATORとスポンサー契約を結ぶ企業が増えている。発表ベースでも、欧州系最大の経営戦略コンサルティングファームであるローランド・ベルガーのほか、ベリサーブ、日本郵政キャピタル、東京海上日動火災保険、ジョイソン・セイフティ・システムズ・ジャパンなどが契約を結んでいる。

## ■海外における空飛ぶクルマのプロジェクト Vahanaプロジェクト：AirBusグループが開発

2020年実用化へ、仏エアバス社が米シリコンバレーの企業と協力して開発を行っている自動操縦航空機プログラム「Vahana project」。8つのローターでプロペラを駆動し、垂直離着陸が可能。乗員1人を輸送可能という。地上を走るためのタイヤは付いていないようだ。2018年2月までにフルスケールモデルの「Vahana Alpha One」の初飛行動画を公開しており、最大5メートルの高さを53秒間対空したという。2020年の完成を目指している。アーバン・エアモビリティ・プロジェクト：アウディらがエアタクシーの試験運用に着手ドイツ大手自動車メーカーのアウディが2018年6月に発表した、エアタクシーの試験運用に向けたモデルケースを構築するプロジェクト。調印式には、ドイツ連邦の運輸大臣、デジタル化担当大臣、航空宇宙機器開発製造会社の仏エアバス、インゴルシュタット市長らが出席し、政治や産業分野のパートナー企業とともに、インゴルシュタット地域において試験運用を開始することとしている。また、アウディは2018年3月に開催されたジュネーブモーターショーで、エアバスとアウディ傘下のイタルデザインが立ち上げたドローンEVプロジェクト「Pop.Up」を進化させたEV自動運転コンセプトカー「Pop.Up Next(ポップ・アップ・ネクスト)」を発表している。小型の2人乗り乗用車の柔軟性と垂直離着陸(パッシェンジャードローン)の自由度・スピードを組み合わせた、空飛ぶクルマのイメージそのものの仕様となっている。(自動運転LABより引用)



# Kobe Executive Seminar

— 第17期テーマ —

## 「ビジネスの新潮流」

日程：2020年4月～12月

会場：神戸ポートピアホテル

### 豪華講師陣

第1回 楽天株式会社 笠原 和彦 氏  
常務執行役員

第2回 富士通株式会社 中山 五輪男 氏  
理事 首席エバンジェリスト  
(兼)エバンジェリスト推進室長  
(兼)未来共創センター長

第3回 株式会社デンソーテン 加藤 之啓 氏  
代表取締役社長

第4回 株式会社タニタ 谷田 千里 氏  
代表取締役社長

第5回 ブラザー工業株式会社 小池 利和 氏  
代表取締役会長

### 全5回コース

※第1・5回目の講演後の情報交換会費を含みます

参加費 1社 6万円(2名まで出席可)

主催：リコージャパン株式会社 兵庫支社 / 株式会社 六甲商会

# Kobe Executive Seminar

企業の新たな成長を日夜模索していらっしゃる兵庫県下の経営者層の方々を対象に、最新の経営事例を学ぶセミナーとして神戸経営者研究会にて企画させていただきました。

当セミナーの特徴は下記のとおりです。

1. 顕著な又はユニークな経営で優れた業績をあげられた企業の最新事例研究をします
2. 経営戦略の立案または実行責任者の方に直接講演していただきます
3. 特定な経営手法に造詣の深いコンサルタントを招聘いたします
4. 定期開催により、会員相互の異業種交流の場としてご活用いただけます

本会の狙いであります経営への示唆を得る場、次期経営者層育成の場、あるいは異業種交流の場として、兵庫県下企業の皆様方の活性化に必ずやお役に立てるものと確信しております。

ご多忙の折とは存じますが、より多くの方々にご参加いただけますようご案内申し上げます。

主催:リコージャパン株式会社 兵庫支社  
株式会社 六甲商会

第1回

2020年 4月16日(木) 16:00~18:00

情報交換会 18:00~19:00

## 急速に進むキャッシュレス化

楽<sup>R</sup>天

楽天株式会社  
常務執行役員

笠原 和彦氏

世界各国でキャッシュレス化が急速に浸透しつつあります。特にお隣の韓国・中国はキャッシュレス化では世界をリードしていますが日本はキャッシュレス化が大きく遅れていると言われていています。日本における「キャッシュレス取扱高No.1」は「楽天」と言われています。キャッシュレス決済とは具体的にどのような種類があり、今後日本ではキャッシュレスがどのように発展していくのか?今後のQR決済の動向などを中心にキャッシュレス化の現状と今後ビジネスへ与える影響を語って頂きます。

第2回

2020年 6月17日(水) 16:00~18:00

FUJITSU

富士通株式会社  
理事 首席エバンジェリスト  
(兼)エバンジェリスト推進室長  
(兼)未来共創センター長

中山 五輪男氏

## 海外最新事例から学ぶ デジタルトランスフォーメーションの進め方

日本企業のデジタルビジネスイニシアティブは他国よりも大幅に遅れているとの報告があるように、現在の日本においては如何にしてこの遅れを取り戻すかが急務となっています。国家としての日本、さらには国内企業がデジタルトランスフォーメーション(以下DX)を強力に推進し、新たな革新的な未来社会を創り上げていかなければ全世界の中における日本のポジションはさらに低下していくことでしょう。そこで本講演では、数多くの動画を活用しながら海外のDX最新事例をご紹介しますとともに、日本におけるDXの進め方についてご紹介頂きます。

第3回

2020年8月24日(月) 16:00~18:00

**DENSO TEN**

株式会社デンソーテン  
代表取締役社長  
加藤 之啓氏

## スマートモビリティ社会の到来に向けた取り組み

2020年2月に、デンソーテンは源流である川西機械製作所創立100年という大きな節目を迎えます。一方、当社を取り巻く自動車業界はメガトレンドである「CASE」を軸とした変化が急速に加速しており、今まさに100年に一度の大変革期を迎えています。「C:Connected(コネクティッド)」「A:Autonomous Driving(自動運転)」「S:Shared&Services(シェアリング/サービス)」「E:Electrification(電動化)」における世の中の変化と、より安心安全なスマートモビリティ社会の実現に向けたデンソーグループの取り組みをご紹介します。

第4回

2020年11月12日(木) 16:00~18:00

**TANITA**

株式会社タニタ  
代表取締役社長  
谷田 千里氏

## 「健康をはかる」から「健康をつくる」へ

多くの方々が「タニタ」の様々な体組成計やヘルスマーター等に日々大変お世話になっていることと思います。(株)タニタは設立75周年を迎えた伝統企業ですが、近年では「健康をはかる」から「健康をつくる」へとその事業領域を広げており、「健康総合企業」へと変身を遂げられています。具体的には「タニタ食堂」「タニタカフェ」「タニタ健康プログラム」「タニタフィッツミー」など様々なサービスを提供されています。今回は変化し続ける「タニタ」の挑戦を語って頂きます。

第5回

2020年12月10日(木) 16:00~18:00

情報交換会 18:00~19:00

**brother.**

ブラザー工業株式会社  
代表取締役会長  
小池 利和氏

## 変革し続けるグローバル企業

ブラザー工業の海外売上比率は80%を越え、海外生産比率は90%を越える「超グローバル企業」です。日本では「ミシン」の会社というイメージが未だに強く残っておりますが、現在は「プリンティング事業」の売上が約60%、その他「工作機械事業」「ネットワーク&コンテンツ事業」さらに産業用印刷の「ドミノ事業」等々、事業領域の拡大を行いながら、営業利益率は10%前後を保つ高収益企業です。今回は現在のグローバルな事業拡大を牽引してきた小池会長のグローバル戦略の経験と歴史、そして経営哲学を語って頂きます。

六甲商会 神戸エグゼクティブフェアーの歴史 ※講演当時の組織・役職にて記載させて頂いております。

今までのセミナー講師様とご講演内容の一部ご紹介

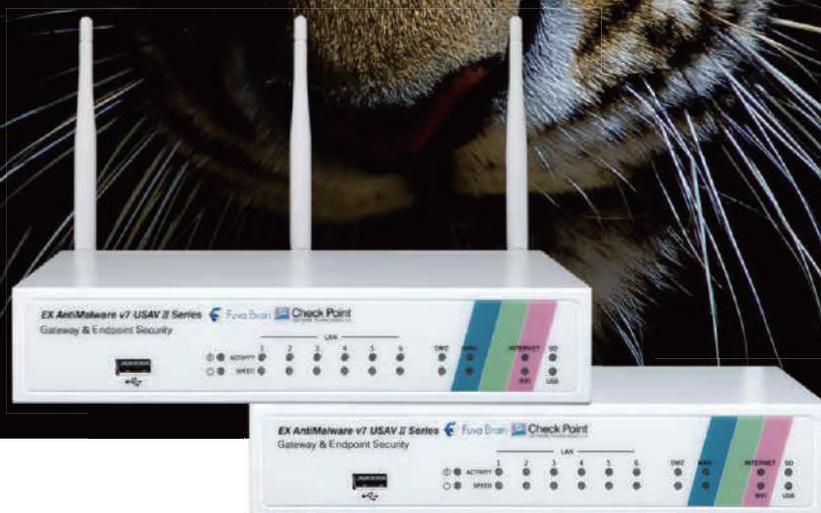
このセミナーはリコージャパンと六甲商会の主催で企画されてます

期	テーマ	講師お名前 (当時の役職にて記載) お名前	講演内容
第1期	1 株式会社スコラ・コンサルト	代表 柴田 昌治	「体質を含めて変化を起こさないと会社は変わらない」
	2 株式会社 伊藤園	常務取締役 社 三雄	「非常識に挑む、伊藤園マーケティングの革新」
	3 メリーチョコレート株式会社	情報システム室長 津田 稔	「情報を駆使した適次サイクル仮説検証経営の実現」
	4 キムラユニティ株式会社	代表取締役専務 木村 昭二	「物流改革・ジャストインタイム生産物流方式を学ぶ」
	5 アクセンチュア株式会社	戦略グループ・トク 三谷 宏治	「経営手法としてのCRM-効果実現への7つの落とし穴」
第2期	1 ワトソンワイツ株式会社	コンサルタント ケビン・D・ワン	「創造性再生の企業運営」
	2 トヨタヒスタ高知株式会社	代表取締役社長 (現初外3南国) 横田 英毅	「お客様の感動を求め続ける企業の歩み-社員満足が競争力の源泉-」
	3 加藤産業株式会社	取締役社長室長 中村 順	「卸売業の最速リユースとローコスト経営」
	4 カシオ計算機株式会社	開発本部 時計統括部長 増田 裕一	「需要創造型商品開発-究極の腕時計(電波時計)の開発」
	5 花王株式会社	ヘルスケア事業開発部長 辻 明夫	「新市場参入マーケティングの実験-花王ヘルシア緑茶の事例」
第3期	1 シャープ株式会社	オンリーワン商品企画 推進本部長 取締役 大河原 卓次	「シャープのオンリーワン戦略」
	2 日東電工株式会社	経営企画部長 武内 徹	「日東電工のグローバルニッチトップ戦略」
	3 シスメックス株式会社	代表取締役社長 家次 恒	「神戸発の世界企業・・・シスメックスのグローバル経営」
	4 ハーレーダビッドソンジャパン株式会社	代表取締役社長 奥井 俊史	「ハーレーダビッドソンのマーケティング」
	5 松下電器産業株式会社	パナソニックAVCネットワークス社 システム事業グループ 高木 俊幸	「松下電器のパナソニック戦略-レッツノート・タフブックの開発」
第4期	1 早稲田大学大学院 教授	ローランド・ベルガー取締役会長 遠藤 功	「見える化・・・企業の根本的な競争力」
	2 産業タイムズ社	取締役 編集局長 泉谷 渉	「電子材料王国トッポンの逆襲」
	3 株式会社 ワールド	代表取締役 寺井 秀蔵	「理想の価値創造経営を目指して」
	4 株式会社 NTTドコモ関西	取締役 ソリューションビジネス本部長 石塚 遊樹	「モバイルサービスはどこまで進化するか」
	5 株式会社 リティールサイエンス	代表取締役 大久保 恒夫	「企業再生の実験」
第5期	1 カゴメ株式会社	営業推進部長 宮地 雅典	「ブランド価値向上を目指した需要創造営業への革新」
	1 株式会社しまむら	代表取締役会長 藤原 秀次郎	「先入観は無用」
	2 株式会社リヴァンプ	代表パートナー 澤田 貴司	「企業再生支援の実験」
	3 福田金属箔工業 株式会社	常務取締役 梶田 治	「IT時代に受け継がれる300年の伝統技術」
	4 アスクル株式会社	業務改革推進 / 統括マネージャー 朋政 輝樹	「ますます進化するアスクル」
第6期	5 Tカード&マーケティング株式会社	代表取締役社長 笠原 和彦	ポイントを通じ異業種を結ぶ新たなマーケティングの仕組み
	1 本田技研工業株式会社	前 代表取締役社長 吉野 浩行	「HONDAの企業風土」
	2 三井物産株式会社	人事企画室長 石川 博紳	「脱成長主義」(経営理念をベースにした新しい評価制度)
	3 サイボウズ株式会社	代表取締役社長 青野 慶久	「チームワークを引き出す経営」
	4 パナソニック株式会社	人事総務本部 e-work推進室長 永木 浩子	「多様な働き方」
第7期	5 神戸経済科学大学	学長 石井 淳蔵	「B to Bブランディング」
	1 神戸大学大学院	教授 金井 善宏	「トップ、ミドル、現場の連鎖-サーバント・リーダーのすすめ」
	2 シャープ株式会社	取締役 人事本部長 谷口 信之	「挑戦する風土づくり」
	3 京セラ株式会社	(前代表取締役会長) 相談役 伊藤 謙介	「京セラの理念経営」
	4 パナソニック電工株式会社	前上席執行役員 生産技術研究所長 小畑 外嗣	「グローバル競争の中で勝ち続けるものづくりとは」
第8期	5 サントリー株式会社	元副社長 独) 日本芸術文化振興会 元理事長 津田 和明	文化は企業経営に役立つか」
	1 日本サッカー協会	名誉会長 川淵 三郎	「夢があるから強くなる」
	2 ダイキン工業株式会社	取締役副社長 川村 群太郎	「中国ビジネスで学んだこと」
	3 コマツ(株式会社小松製作所)	顧問 (前代表取締役会長) 安崎 暁	「中国ビジネス成功のプロセス」
	4 創薬集団株式会社	代表取締役会長 鄭 剣豪	「日本の中小製造業は中国市場に活路を見出すことができるのか」
第9期	5 神栄株式会社	代表取締役会長 新 尚一	「中国とのビジネスはどうあるべきか」
	1 財団法人 兵庫地域政策研究機構	理事長 (前 兵庫県知事) 貝原 俊民	「今後の日本のあるべき姿」
	2 プラザ工業株式会社	前会長・相談役 安井 義博	「グローバル企業への歩み」
	3 日本コカコーラ株式会社	代表取締役会長 魚谷 雅彦	「日本企業に求められるマーケティング戦略」
	4 「靴下屋」 タビオ株式会社	代表取締役会長 越智 直正	「メイド・イン・ジャパンを世界へ」
第10期	5 甲南大学大学院教授 (前 神戸大学大学院教授)	加藤野 忠男	「日本のグローバル企業から学ぶ」
	1 日本航空株式会社	代表取締役会長 大西 賢	「JALの再生に向けた取組み」
	2 株式会社大創産業	代表取締役社長 矢野 博丈	「生きる」
	3 日本サムスン株式会社	元顧問 石田 賢	「日本企業の再生に“サムスン”から何を学ぶか」
	4 株式会社良品計画	代表取締役会長 松井 忠三	「日本の“無印良品”から世界の“MUJI”へ」
第11期	5 株式会社スコラ・コンサルト	代表 柴田 昌治	「企業改革・再生・成長の基本は意識改革にあり」
	1 コクヨ株式会社	代表取締役社長 黒田 章裕	「経営理念と成長戦略」
	2 ライフネット生命保険株式会社	代表取締役会長 出口 治明	「子育て世代の保険料を半額に」
	3 カゴメ株式会社	代表取締役会長 西 秀訓	「ブランド価値を中心としたカゴメの経営」
	4 株式会社 LIXIL	取締役副社長 八木 洋介	「グローバル展開とOneLIXILの構築」
第12期	5 ヤマトホールディングス株式会社	代表取締役会長 瀬戸 薫	「DAN-TOTSU経営」それぞれのステークホルダーの満足度をダントツにする」
	1 日本マイクロソフト株式会社	代表執行役員社長 樋口 泰行	「グローバル新時代におけるリーダーシップとIT」
	2 楽天株式会社	代表取締役副社長 穂坂 雅之	「成長を加速させる楽天エコシステム戦略」
	3 株式会社やまと	代表取締役会長 矢嶋 孝敏	「きもの文化を創る」
	4 前伊藤忠商事会長 前中国大使	丹羽 宇一郎	「グローバル化と日本の将来」
第13期	5 カシオ計算機株式会社	取締役専務執行役員 増田 裕一	「デジタルからアナログへ」
	1 ネスレ日本株式会社	代表取締役社長兼CEO 高岡 浩三	「ネスレ日本の21世紀型マーケティング経営」
	2 スカイマーク株式会社	代表取締役会長 佐山 展生	「新生スカイマークと企業価値の向上」
	3 株式会社 TASAKI	代表取締役社長 田島 寿一	「見事に復活したTASAKI」
	4 株式会社 アシックス	代表取締役社長CEO 尾山 基	「アシックスのグローバル戦略」
第14期	5 株式会社 ロック・フィールド	代表取締役会長 兼 CEO 岩田 弘三	「ロック・フィールドの革新と挑戦 ~これまでとこれから~」
	1 株式会社ファミリア	代表取締役社長 岡崎 忠彦	「クリエイティブ経営」
	2 モロゾフ株式会社	代表取締役社長 山口 信二	「こころなく、笑顔かがやく」
	3 フジッコ株式会社	代表取締役社長 福井 正一	「フジッコ食文化の創造」
	4 株式会社ノーリツ	代表取締役社長 関井 総一郎	「新しい幸せを、わかすこと。」
第15期	5 シスメックス株式会社	代表取締役会長 兼 社長 家次 恒	「ヘルスケアの進化をデザインする」
	1 住友化学工業株式会社(前)ダンロップスポーツ株式会社	日本ゴルフ用品協会会長 兵庫工業会副会長 馬場 宏之	「ダンロップ・セクシオ・スクリクソン」
	2 桜正宗株式会社	代表取締役社長 山邑 太左衛門	「誠元「正宗」の元祖櫻正宗400年の歴史と今」
	3 グローリー株式会社	代表取締役社長 尾上 広和	「100年を振り返って」
	4 パンドー化学株式会社	代表取締役社長 吉井 満隆	「過去が映っている、未来のつぼみでいっぱい今」
第16期	5 川崎重工業株式会社 (前) 代表取締役社長 相談役	大橋 忠晴	「グローバル世紀を生きた120年企業の挑戦」
	1 神戸新聞社	代表取締役社長 高士 薫	「もっといっしょに神戸新聞」
	2 古野電気株式会社	代表取締役社長 古野幸男	「売って喜ぶ、買って喜ぶ-お客様とともに、これからも-」
	3 鹿嶋本家酒造株式会社	代表取締役社長 鹿嶋建仁	「米を笑いに」
	4 六甲バター株式会社	代表取締役会長 塚本 哲夫	「Q・B・Bブランドにしかできない価値」
第17期	5 関西学院大学	学長 村田 治	「労働生産性の向上と大学教育」

中小企業に最適な多層防御型情報漏えい対策

アンチマルウェア

# EX AntiMalware v7 USAV II



標的型攻撃も。顧客情報流出も。機密情報の持ち出しも。  
情報漏えいリスクをまとめて減らすヒント、教えます。

# UTM・エンドポイントセキュリティ・業務可視化のトリプルガードで企業の情報資産を守ります。

EX AntiMalware v7 USAV II は、世界最高水準のセキュリティを誇る「CheckPoint」UTM と Fuva Brain の提供するエンドポイントセキュリティ「EX AntiMalware v7」、業務可視化ソフトウェア「PasoLog」3つのセキュリティで、従来型のセキュリティでは不可能だった多層防御型のセキュリティを実現し、企業の情報資産を外部・内部の脅威から守ります。

## 導入後はセキュリティ情報を自動更新！ 内部統制機能まで付いているから、こんなに嬉しい！

セキュリティ製品を組み合わせたソリューション



管理者  
A社さま

サイバー攻撃をされていたらしい。でも防げなみたい。



サイバー攻撃をされても、ネットワークの入口と出口・各PCで防ぎます。また、検知したボットウイルス数、マルウェア数、攻撃件数は、セキュリティレポートで確認できます。



サポート



管理者  
C社さま

USBメモリがマルウェア感染していたらしい。でもPCには感染しなかった。



感染USBはリアルタイム検知機能にて瞬時に検知可能です。他のPCやネットワークに被害を拡散させることなく、マルウェアを確実に隔離します。



サポート



管理者  
D社さま

PCがマルウェアに感染する前にすぐに検知・隔離できたので、大きな被害にはならなかった。



2種類のマルウェアデータベースが、フーバーブレイン独自の高度監視強度を誇るスキャンエンジンと連携し、マルウェア実行前にその挙動を感知してアクティブにブロックします。



サポート



管理者  
B社さま

USBメモリやスマホ接続、利用ソフトの制限がかけられるようになって助かっている。



使用できるUSBメモリやWPD、ソフトを制限できるので、「業務に必要な物のみ許可」といったことが可能となります。また、無断使用の危険なフリーソフトなどからのマルウェア感染を予防できます。



サポート



管理者  
Y社さま

遠隔地や持ち出し中のPCのセキュリティ状況も一括管理・把握出来るので安心できる。



管理コンソールから、管理している全てのPCの状況を把握できます。また、どこにいてもクラウドから最新のデータを提供し、マルウェアの検知履歴も一括管理可能です。



サポート



管理者  
S社さま

従業員のPC作業状況の把握ができて、全体の業務効率アップに繋がった。



PCの日々の作業内容を記録し、管理者にメールで自動送信することが可能です。誰がどのような作業を行っていたのかを見える化し、内部不正も抑止します。



サポート

# マウスコンピューターのおすすめPC

## 14型 Thin&Light ノートパソコン



### m-Book X400シリーズ

筐体サイズは従来品13.3型並ながら、14型の液晶パネルを採用し表示操作性の向上  
【軽量】約1.1kgかつ【携帯】約14時間のバッテリー駆動  
優れた実用性「HDMI」「有線LANポート」「USBポート3つ」「ケンジントンロック」  
用途に応じ選べるラインアップ ●Core i7モデル ●Core i5モデル

モバイルノートPCとして  
必要な強度を兼ね備える  
デザインで  
厚さ約17.5mm\*を実現。

約17.5mm



\*折り畳み時、突起部含まず。

当社14型ノートパソコン  
と比較して、約25%軽い  
約1.13kg\*を実現。  
持ち運びやすく  
どこでも気軽に使える。

\*本体のみ、付属品を含まず。

軽さ  
約1.13kg



14時間を超える  
バッテリー動作時間。  
長時間の作業が可能で  
外出先でも安心。

\*JEITA測定法2.0による  
バッテリー平均動作時間。



軽質なアルミと比較して  
さらに軽く剛性も高い  
マグネシウム合金を  
本体の外装素材に採用。



USB端子を本体の  
両側面に配置。  
Type-CのUSB端子は  
高速データ転送が  
可能なUSB3.0に対応。



LAN  
USB3.0-2.0  
ヘッドフォン(ヘッドセット)

ナローベゼルデザイン  
を採用。  
14型フルHD解像度の  
見やすく、操作しやすい  
広い画面表示。



Windows 10 Pro  
64ビット

8GB メモリ

256GB SSD  
(M.2規格)

14型 フルHD ノングレア  
(1,920×1,080/LEDバックライト)

軽さ 約 1.13kg

動作時間 約 14.5時間  
\*JEITA測定法2.0による  
バッテリー平均動作時間

MousePro-NB3シリーズ(13.3型)が、ロングセラーモデルとして躍動した理由  
それは、性能・価格・充実したインターフェイスポート(HDMI/RJ-45/USB)を実現し、  
さまざまなビジネスシーンでの必須要件を満たしていたため

X400でmouseのモバイルが新しい1ページを切り開く

# m-Book X400シリーズ

## m-Book X400シリーズ ラインアップ

型番	1906MB-X400S-PRO-QD
商品コード	JH61O00017
OS	Windows 10 Pro 64ビット
CPU	Core i5-8265U
メモリ	8GB
SSD	M.2 256GB
保証	1年ピックアップ

型番	1906MB-X400H-PRO-QD
商品コード	JH61O00018
OS	Windows 10 Pro 64ビット
CPU	Core i7-8565U
メモリ	8GB
SSD	M.2 256GB
保証	1年ピックアップ



参考標準価格：¥105,600

ご提供価格  
**¥100,000**

※台数限定のキャンペーン商品となります



参考標準価格：¥120,600

ご提供価格  
**¥114,000**

※台数限定のキャンペーン商品となります

**NEW PRICE**

記載の金額は税抜価格となります。

## マウスコンピューターのパソコン おすすめPOINT

### マウスコンピューターの期待を超える 3つのポイント

Made in Japan



安心の国内生産で、  
高品質の製品を素早く納品。  
受注生産だから、納得の価格を実現。

※一部モデルは海外製造も行っていきます。

Just for You



用途に合わせてぴったりの一台が選べる  
豊富なブランド、商品ラインアップ。  
カスタマイズであなただけの一台も。

Full Support



24時間、365日の電話サポート。  
72時間※以内の修理完了を目指す。  
安心のサポート体制です。

※平均時間。状況によっては72時間を超えることもあります。



モニターの購入をご検討のお客さま  
ぜひIIYAMAブランドをご検討ください！

納期のご確認は弊社担当営業までご相談ください